

日本語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語構造論特論Ⅰ	文章・談話の構造論: 談話標識を中心に	2	甲田直美	1学期	月	3	日本語構造論特論Ⅱ
日本語変異論特論Ⅰ	日本語文法研究	2	大木一夫	1学期	木	2	日本語変異論特論Ⅱ
日本語変異論特論Ⅱ	方言学的日本語史研究	2	小林隆	2学期	火	2	日本語変異論特論Ⅰ
日本語学特論Ⅰ	方言文法の記述と対照	2	小西いずみ	集中(1学期)			日本語変異論特論Ⅲ
日本語構造論特論Ⅱ	現代日本語の構文と意味	2	天野みどり	集中(2学期)			日本語構造論特論Ⅰ
日本語構造論研究演習Ⅰ	文章・談話の構造	2	甲田直美	2学期	月	3	日本語構造論講読
日本語構造論研究演習Ⅱ	日本語の時間表現	2	津田 智史	1学期	水	2	日本語構造論研究演習Ⅱ
日本語変異論研究演習Ⅰ	中世語研究	2	大木一夫	1学期	月	2	日本語変異論研究演習Ⅴ
日本語変異論研究演習Ⅱ	言語変化の研究	2	大木一夫	2学期	木	2	日本語変異論講読
日本語変異論研究演習Ⅲ	方言調査法	2	小林隆	1学期	火	2	日本語構造論研究演習Ⅰ
日本語学総合演習Ⅰ	日本語史・方言研究の諸問題(1)	2	小林隆・大木一夫・ 甲田直美	1学期	火	4	日本語変異論研究演習Ⅰ
日本語学総合演習Ⅱ	現代日本語研究の諸問題(1)	2	小林隆・大木一夫・ 甲田直美	2学期	火	4	日本語変異論研究演習Ⅱ
日本語学総合演習Ⅲ	日本語史・方言研究の諸問題(2)	2	小林隆・大木一夫・ 甲田直美	1学期	火	5	日本語変異論研究演習Ⅲ
日本語学総合演習Ⅳ	現代日本語研究の諸問題(2)	2	小林隆・大木一夫・ 甲田直美	2学期	火	5	日本語変異論研究演習Ⅳ

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LM11301， 科目ナンバリング：LJS-LIN601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語構造論特論 II 】

1. 授業題目：

文章・談話の構造論：談話標識を中心に

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Structure : Discourse and Pragmatic Markers

3. 授業の目的と概要：

談話における談話標識の機能を探る。そのために、談話の構造論、談話標識の研究について理解する。

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1) 文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2) 会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：

(1) 近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声，イントネーション
3. ターン交替，TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス，言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点，レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語変異論特論 I / Variation of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LM14202， 科目ナンバリング：LJS-LIN603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論特論 II 】

1. 授業題目：

日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、モダリティ。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is modality.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,
- (2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,
- (3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：小林隆（教授）

講義コード：LM22201， 科目ナンバリング：LJS-LIN604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論特論Ⅰ】

1. 授業題目：

方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：

study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Study of the dialectological Japanese history chooses a dialect as being able to come in sight, and to exceed the limit of the conventional Japanese history in the phase of the word and the side of the geographical expanse. Such purpose of a study and methodology are being explained and various problems are being considered through description of history in detail at this session.

Taking up an operating aspect of the word a study wasn't advancing up to now in particular and making the difference among regions clear this time as well as also including a social viewpoint, and to considering historically, I'd like to advance.

5. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。また、身近な方言に対して、その運用面に対する観察眼を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Understand the study of the dialectological Japanese history. In addition, for familiar dialects, develop an observation eye for the operational aspects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 授業への導入
2. 2. 目的・方法・資料
3. 3. オノマトペ (1)
4. 3. オノマトペ (2)
5. 4. 感動詞 (1)
6. 4. 感動詞 (2)
7. 5. 挨拶表現 (1)
8. 5. 挨拶表現 (2)
9. 6. 言語行動 (1)
10. 6. 言語行動 (2)
11. 7. 談話展開 (1)
12. 7. 談話展開 (2)
13. 8. 言語的発想法 (1)
14. 8. 言語的発想法 (2)
15. 9. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (80%)・出席 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学特論Ⅰ／ Japanese Linguistics(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (1学期), 単位数：2

担当教員：小西いずみ (非常勤講師)

講義コード：LM98803, 科目ナンバリング：LJS-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論特論Ⅲ】

1. 授業題目：

方言文法の記述と対照

2. Course Title (授業題目)：

Descriptive and contrastive study on the grammar of Japanese dialects.

3. 授業の目的と概要：

日本語諸方言の文法を記述・対照するための観点・方法を学ぶ。語と形態素の認定についてのさまざまな立場をふまえたうえで、活用、終助詞、格と情報構造という3つのテーマを扱う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this course is to investigate perspectives and methods of descriptive and contrastive study on the grammar of Japanese dialects. After introducing fundamental knowledge about identifying words and morphemes, we treat three topics: (1) conjugation, (2) sentence-final particle, and (3) case and information structure.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語諸方言の文法の諸相や研究方法についての基礎的な知識を得る。
- (2) 上の知識を具体的なデータに適用し、分析・考察を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Learning fundamentals to study the grammar of Japanese dialects.
- (2) Analyzing and investigating specific data applying the knowledge of (1).

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス、語・形態素の認定
第2回：活用 (1)
第3回：活用 (2)
第4回：活用 (3)
第5回：活用 (4)
第6回：終助詞 (1)
第7回：終助詞 (2)
第8回：終助詞 (3)
第9回：終助詞 (4)
第10回：終助詞 (5)
第11回：格と情報構造 (1)
第12回：格と情報構造 (2)
第13回：格と情報構造 (3)
第14回：格と情報構造 (4)
第15回：格と情報構造 (5)

8. 成績評価方法：

レポート (80%)、授業での参加態度 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

We don't use any particular textbook. References will be introduced during the course.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし

科目名：日本語構造論特論Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中（2学期）、 単位数：2

担当教員：天野みどり（非常勤講師）

講義コード：LM98804、 科目ナンバリング：LJS-LIN602J、 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語構造論特論Ⅰ】

1. 授業題目：

現代日本語の構文と意味

2. Course Title (授業題目)：

Construction and Meaning in Modern Japanese

3. 授業の目的と概要：

逸脱的特徴を持つ実例の意味解釈過程を考察し、構文という単位の持つ、全体的で抽象化された類型的意味に関する文法的知識の重要性を論じる。逸脱的特徴を持つ文は、ベースとなる構文の類型的意味を類推によって写像し、実際に出現した形式の意味に創造的な意味を重ね、文脈に合わせた柔軟な意味解釈がなされている。本講義では、自・他動詞構文、受益構文、尊敬語構文等、様々な逸脱的特徴を持つ文を考察対象とし、それらの意味がどのようなものと解釈されるか、その解釈過程に貢献する文法的知識とはどのようなものかを考える。実際に使用された文を自らの内省を用いて考察し言語についての理解を深めることが本講義の主たる目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・現代語文法研究の基礎として、内省判断調査と実例観察の2つの研究手法を身につける。
- ・構文に関する先行研究を整理し、自身の意見を述べることができる。
- ・構文に関する課題を設定し、調査・分析をすることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 構文研究の概観、本講義の見通し、重要概念の規定
2. 内省判断とは・実例観察とは
3. 逸脱的なノヲ文の考察「やろうとするのを手を振った」
4. 他動詞構文の様々
5. 逸脱的なノガ文の考察「技術優先だったのが背の高い選手が多い」
6. 自動詞構文の様々
7. 逆接・対比とは何か
8. 新しい接続詞「ソレガ」：格助詞と接続詞の機能の重なり
9. ノ節の用法の拡がりー主要部内在型関係節とは何か
10. 連体修飾節の様々
11. 逸脱的な受益文の考察「みなさん練習してもらわないと」
12. 受益構文の様々
13. 逸脱的な尊敬語構文の考察「お庭がきれいでいらっしやいますね」：無生物主語の容認度
14. 母語話者と日本語学習者の意味解釈の異なり
15. 本講義のまとめー構文の意味の類推拡張

8. 成績評価方法：

授業参加状況（コメントペーパー・課題提出）50%、レポート50%。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定無し。プリントを配布する。

参考書は以下の通り。

天野みどり（2002）『文の理解と意味の創造』笠間書院

天野みどり（2011）『日本語構文の意味と類推拡張』笠間書院

その他、参考書は授業時に適宜示す。

10. 授業時間外学習：

レポート作成のための準備はすべて授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LM21301， 科目ナンバリング：LJS-LIN610J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語構造論講読】

1. 授業題目：

文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

- I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
- II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
- III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course deals with the basic methods to analyze discourse and conversation.

- I. Approaches to genre, register, studies on discourse markers, anaphora, ellipsis, connective words, participation framework, and turn construction unit
- II. Methods for collecting data
- III. Guidelines for assignment report writing

5. 学習の到達目標：

- (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
- (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goals of this course are to obtain basic methodology and skill to analyze discourse and conversation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点
2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
3. テキストにおけるジャンル差
4. コーパス研究 1
5. コーパス研究 2
6. 文章における諸現象 1
7. 文章における諸現象 2
8. 会話における諸現象 1
9. 会話における諸現象 1
10. ドラマの構造分析
11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

8. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：1学期， 単位数：2

担当教員：津田 智史（非常勤講師）

講義コード：LM13202， 科目ナンバリング：LJS-LIN611J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

日本語の時間表現

2. Course Title (授業題目)：

Temporal Expressions in Japanese Linguistics

3. 授業の目的と概要：

日本語の時間表現に関する研究論文について、その内容を要約し、発表をおこなう。分析対象として、現代日本語だけでなく方言などもあつかう。また、必要により認知言語学、対照言語学、日本語教育学などの隣接分野の内容にもふれる。受講者全員で研究論文の内容について討議し、日本語の時間表現に関する理解を深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the temporal expressions in Japanese Linguistics. Students will read the research papers about it, and summarize papers. Not only modern Japanese, but also dialects, cognitive linguistics, and contrastive linguistics. All students will discuss the content and also develop their presentation skills.

5. 学習の到達目標：

- (1) 自分たちが使うことばについての基礎的知識を身に付ける
- (2) 語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける
- (3) 適切な発表資料の作成方法、発表・プレゼンテーションの技法を身に付ける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The primary goal of the class is for students to gain below.

- (1) To acquire basic knowledge of Japanese
- (2) To learn about the way to research and to solve problems
- (3) To develop the skills of how to create presentation materials, and the way of presentation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回から数回は講義形式。その後、演習形式で受講者の発表を中心に進めていく。

1. ガイダンス
2. 日本語時間表現の概観
3. テンス概説
4. アスペクト概説
5. 時間表現に関する論文講読 (1)
6. 時間表現に関する論文講読 (2)
7. 時間表現に関する論文講読 (3)
8. 時間表現に関する論文講読 (4)
9. 時間表現に関する論文講読 (5)
10. 時間表現に関する論文講読 (6)
11. 時間表現に関する論文講読 (7)
12. 時間表現に関する論文講読 (8)
13. 時間表現に関する論文講読 (9)
14. 時間表現に関する論文講読 (10)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席および授業への参与状況 [30%]・演習発表 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

発表担当者は、担当となった論文とその内容に関わる用語等について、日本語学関連の辞書や関連論文・書籍から調べておく。受講者は、事前にその論文を読み、その内容についての疑問や意見等をまとめておく。日常のことばのなかにある日本語の時間表現について注意を払い、身近にある用例を採集する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

なし。

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LM11202， 科目ナンバリング：LJS-LIN612J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論研究演習 V 】

1. 授業題目：

中世語研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of middle Japanese language

3. 授業の目的と概要：

中世後期の口語資料のひとつとして知られる「大蔵虎明本狂言集」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「大蔵虎明本狂言集」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものであるのかをさまざまな視点から検討しながら、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, while reading Kyogen, you analyze various aspects of the history and change of Japanese, especially middle Japanese language.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to read materials in old Japanese languages.
- (2) be able to find problems in Japanese language history
- (3) be able to conduct surveys to grasp the history of Japanese language based on literature materials, and to make reports and discussions based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古辞書概説 (1)
3. 古辞書概説 (2)
4. 発表の方法
5. 研究発表 (1)
6. 研究発表 (2)
7. 研究発表 (3)
8. 研究発表 (4)
9. 研究発表 (5)
10. 研究発表 (6)
11. 研究発表 (7)
12. 研究発表 (8)
13. 研究発表 (9)
14. 研究発表 (10)
15. 研究発表 (11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019
テキスト（『狂言之本』大蔵虎明本狂言集）はコピーして配付する。
参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

第 2 学期の「日本語変異論研究演習 II」（言語変化研究）も連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LM24202， 科目ナンバリング：LJS-LIN613J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論講読】

1. 授業題目：

言語変化の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of language change

3. 授業の目的と概要：

日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史上におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
- (2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
- (3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 言語変化研究の現状(1)
3. 言語変化研究の現状(2)
4. 言語変化研究の現状(3)
5. 言語変化研究の問題意識(1)
6. 言語変化研究の問題意識(2)
7. 言語変化についての研究発表(1)
8. 言語変化についての研究発表(2)
9. 言語変化についての研究発表(3)
10. 言語変化についての研究発表(4)
11. 言語変化についての研究発表(5)
12. 言語変化についての研究発表(6)
13. 言語変化についての研究発表(7)
14. 言語変化についての研究発表(8)
15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

第1学期の「日本語変異論研究演習Ⅰ」(中世語の研究)から連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：小林隆（教授）

講義コード：LM12202， 科目ナンバリング：LJS-LIN614J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語構造論研究演習 I 】

1. 授業題目：

方言調査法

2. Course Title (授業題目)：

Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations.

5. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

A way of a dialect investigation is considered, and an investigation is planned and it's put into effect actually.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学総合演習 I / Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：小林隆・大木一夫・甲田直美（教授）

講義コード：LM12401， 科目ナンバリング：LJS-LIN606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論研究演習 I 】

1. 授業題目：

日本語史・方言研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Japanese language history and Japanese dialect

3. 授業の目的と概要：

日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
- (2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
- (3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

1 0. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅲも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：小林隆・大木一夫・甲田直美（教授）

講義コード：LM22401， 科目ナンバリング：LJS-LIN607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

現代日本語研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目)：

Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：

現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
- (2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
- (3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

1 0. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習IVも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期, **単位数：**2

担当教員：小林隆・大木一夫・甲田直美(教授)

講義コード：LM12501, **科目ナンバリング：**LJS-LIN608J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

日本語史・方言研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Japanese language history and Japanese dialect

3. 授業の目的と概要：

日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
- (2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
- (3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

- (1) レポート(研究発表の内容にもとづく論文) 90%
- (2) 参加態度(口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

1 0. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 I も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅳ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：小林隆・大木一夫・甲田直美（教授）

講義コード：LM22501， 科目ナンバリング：LJS-LIN609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語変異論研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

現代日本語研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目)：

Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：

現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：

- (1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
- (2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
- (3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
- (2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
- (3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

- (1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
- (2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

1 0. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅱも連続履修すること。